

指定地域密着型サービスの自己評価

評価実施日： 令和3年12月31日

評価事業所： グループホーム 笑みの里

運営推進会議での検討日： 令和4年6月2日

	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話し合った内容
1. 理念・安心と安全に基づく運営					
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A.十分にできている	法人の理念に基づき目標を設定し、事業所内に掲げ全職員で共有できるようにしている	
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	C.あまりできていない	コロナ過の中、地域との交流はできていない	特になし
3	事業所の力を活かした地域貢献	事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	C.あまりできていない	運営推進会議において生活の様子や支援方法を伝え、推進委員の方々に理解してもらっている。法人にて行う地域貢献に参加している	特になし
4	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A.十分にできている	運営推進会議において生活の様子や支援方法、事故報告等を行い、推進委員の方々から頂いた意見をスタッフ間で共有し、サービスの向上に活かしている。	特になし
5	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	A.十分にできている	市町村担当者には運営推進会議に出席していただき、様々な意見をいただき、関係性を築いている	特になし

6	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A.十分にできている	法人の身体拘束の研修会にて身体拘束の意味を理解し拘束をしないケアに取り組んでいる。安全対策上どうしても必要な方には本人や家族に了解を得て行っている（センサーマット、窓の鍵など）	
7	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	B.ほぼできている	人権擁護委員会において話し合ったり、研修を行ったり、また「スピーチロックゼロ」の標語を作成して見えるところに掲げている。	
8	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	C.あまりできていない	日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強する機会がもてていないので、今後は研修会等への参加をしていきたい。	
9	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A.十分にできている	施設の見学時に疑問点など確認し、そして入居申し込み時に重要事項の説明を行い、入居時に契約締結を行っている。解約についても家族と十分お話をを行った上で行っている。	
10	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B.ほぼできている	利用者に対しては日常の会話にて要望等を聞き、家族に対しては面会時や電話にて意見、要望などを聞いている。	
11	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A.十分にできている	月1回のケア会議を開催し職員間で意見や提案を出し、話し合っケアの向上に繋げている。	
12	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A.十分にできている	考課表にて個々の努力や意見を伝える事ができている。各自が向上心を持って働ける職場である	

13	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A.十分にできている	法人内での研修会や外部研修の参加の機会をつくり、スキルアップにつなげている。新人職員については、到達度の確認を行っている	
14	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	C.あまりできていない	同業者との交流する機会が減少し、ネットワーク作りができていないので、今後は取り組んでいきたい。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	初期に築く本人との信頼関係	サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	A.十分にできている	入居前や入居時にご家族やご本人に心配なことがないか伺ったり、入居後は声かけを頻回に行い、心配事等を確認している。	
16	初期に築く家族との信頼関係	サービスの利用を開始する段階で、家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	A.十分にできている	入居申し込み時の重要事項の説明時や入居時にご家族に悩みや要望等を聞き取り、一緒に考え相談しながら支援を行っている。	
17	初期対応の見極めと支援	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	A.十分にできている	サービスの開始にあたり、ケアマネジャーがご家族やご本人から十分なアセスメントをとり、必要としている支援を取り入れている。	
18	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A.十分にできている	職員と利用者はお互いに助け合う関係性ができている。できる事をしてもらったり、家事の支援をお願いしたりしている。利用者からは職員を心配したり労わる言葉が聞かれる	

19	本人を共に支え合う家族との関係	職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族のきずなを大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	B.ほぼできている	面会時や電話にて、ご家族に利用者の健康状態や生活状況を伝え、家族と情報の共有を行い家族の協力を得て、一緒に支援している。	
20	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A.十分にできている	家族や親せき、知人、近隣の方々との関係が続けられるよう、電話をしたり関係作りに努めている。行きつけの美容院に行けるようにも支援している。	
21	利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	A.十分にできている	ご利用者それぞれの性格や生活スタイルを把握し、職員が中に入って関係性を築き、利用者同士がいたわり合う声かけができています。	
22	関係を断ち切り居ない取組	サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	A.十分にできている	退居時に、退居になった後も不安な事や分からないことがあれば何時でも相談に乗る体制であることを伝えている。退居後の様子を伺ったり、施設へ遊びに来ていただいている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A.十分にできている	本人の希望に添えるように、自分から表現しない入居者にたいしても言葉だけでなく表情や行動から思いや意向を把握できるようにしている。	
24	これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	B.ほぼできている	今までの生活歴や趣味等を本人、家族に聞き取り習慣やなじみの暮らしが続けていけるように心掛け居室にも愛用してきた物を置いている。	

25	暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	A.十分にできている	毎日のバイタルチェックと日々の関わりの中で心身状態を把握し、変化があれば主治医に相談している。一日の過ごし方は自由で個々の生活スタイルを推進している	
26	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	B.ほぼできている	利用者・家族の意向を確認し、職員間で話し合った内容を介護計画の反映している。状態変化がある場合の見直しや毎月のモニタリングを行っている	
27	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A.十分にできている	利用者の日々の様子や病院受診状況、体調不良の状況などを記録システムにて記録し、職員間で情報共有ができている。ケアの変更の必要性があればケアプランの見直しを行っている	
28	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A.十分にできている	ニーズに対して現実性、客観性を踏まえ検討を深めている。必要な福祉用具の購入や設備の改修を行っている	
29	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	D.ほとんどできていない	どのような地域資源があるか、活用できるか情報収集に努めながら、コロナ収束時は地域ボランティアを受け入れていきたい	
30	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A.十分にできている	本人及び家族の希望を尊重し、協力病院やその他の病院にて適切な医療が受けられるよう支援している。	
31	看護職員との協働	看護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	A.十分にできている	毎日バイタルチェックや身体観察を行い、異変が見られた際は同法人の看護師や協力病院と連携をとっている。連絡、報告が密に取れる体制ができている。	

32	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	B.ほぼできている	入院時は安心して治療に専念できるように、又早期退院ができるように家族や病院関係者と連絡を取り退院後のスムーズな支援に繋がるよう努めている。	
33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B.ほぼできている	看取り指針や意思確認書を用い、終末期や急変時の対応を都度確認している。状態低下時には併設の特養担当者とも情報共有を行っている。	
34	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B.ほぼできている	法人内の研修会にて褥瘡や表皮剥離、感染予防など初期対応などの勉強を行った。応急手当について学ぶ機会を作りたい	
35	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A.十分にできている	毎月、防災避難訓練を行い、年に1回は消防署、警察署、地域の住民と連携を取り避難訓練を行い、協力体制を整えている。	特になし
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A.十分にできている	個々の特性を理解し、受容し、尊厳を守り入居者一人一人に合わせた対応を行っている。トイレや入浴時はプライバシー保護出来ている。	
37	利用者の希望の表出や自己決定の支援	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	A.十分にできている	日々の生活の中で入浴やおやつの時間、過ごし方など入居者に声かけをしながら本人が自己決定が出来るような支援を行っている。	

38	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A.十分にできている	一人一人の生活スタイルを尊重しその方のペースでゆっくり過ごせるよう、希望に沿った対応を行っている。	
39	身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	A.十分にできている	毎日、衣服や髪飾りの相談にのったり、定期的な美容師の散髪時の援助、馴染みの美容室への送迎、化粧品の購入など支援を行っている。	
40	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A.十分にできている	入居者の好みを聞いたりしながら季節の食材を使ってのメニューを考えている。利用者のできる範囲で、片付け等に積極的に参加してもらっている。	
41	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A.十分にできている	食事量や水分量を記録し栄養や水分不足にならないよう、常に状況把握に努めている。個々の状態や嗜好に合わせ、代替食やお粥、きざみ食、トロミを使用し摂取量の確保に努めている。	
42	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A.十分にできている	1人ひとりにあった口腔ケア用品を使用し、口腔内の観察や仕上げ磨きを行っている。義歯は定期的に洗浄剤を使用し、口腔ケア用品は毎日消毒している。	
43	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A.十分にできている	支援の必要な方にはご本人の訴えにすぐに対応し、またさり気ない声かけにてトイレ誘導を行っている。おむつ使用を減らし、布パンツの使用に変更したり、出来る限り自立した排泄にむけた声かけや誘導を行っている。	
44	便秘の予防と対応	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A.十分にできている	個々の排便状況を職員間で共有し、食事のバランスや水分量等に気を付け、野菜の多い食事メニューを取り入れたり毎朝ヨーグルトを摂取して頂いている。	

45	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A.十分にできている	体調やタイミングを見計らい、ご本人の希望を聞きながら入浴の支援をしている。入浴方法や介助の仕方など個人々に沿った支援を行っている。	
46	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A.十分にできている	生活習慣や体力等、その方の身体状況に合わせ、個々に対応している。就寝時間や室温、照明も個々に対応している。	
47	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A.十分にできている	職員は入居者の服薬の内容を理解し、症状の変化に応じて治療や服薬調整に繋がっている。	
48	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A.十分にできている	一人一人の好きな事、得意な事を把握し、それぞれに合った家事支援や生活リハビリ、レクリエーションを行い楽しみを持っていただいている。	特になし
49	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	C.あまりできていない	季節の催しやドライブ、家族との買い物など外出は積極的に支援する方向ではあるが、最近は感染対策のために外出できていない。しかし気候の良い日は外気浴や日光浴を行っている。	特になし
50	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	D.ほとんどできていない	事業者が預り金として個人個人のお金を管理しているが、施設の夏祭りや外出時に本人がお金を所持し、使用できるように支援する考えである	
51	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B.ほぼできている	事務所の電話で家族や知人に電話したり、かかってきた電話を取り次いでいる。荷物や手紙が届いた際には連絡を入れ、本人と話してもらうなど近況報告を兼ねて支援している。	

52	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A.十分にできている	共有空間は利用者や面会に来られた方が不快な思いをしないように、音量や障害物に配慮している。季節感を感じられるような物品や花木の配置を行い心地よく過ごせるように努めている。	
53	共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	A.十分にできている	所々に椅子を配置し、利用者同士で思い思いに過ごせるよう居場所作りを行っている。	
54	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊りの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	A.十分にできている	本人、家族の意向または今まで使っていた馴染みの家具や仏壇、装飾品、写真を置くことで居心地の良い居室作りに心掛けている。	
55	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	A.十分にできている	自立した生活ができるよう状態に応じた空間作りを心掛けている。(張り紙など)安全面では生活の場に危険のないよう環境の整備に努め、安全で自立した生活が送れるよう工夫している。	
V. アウトカム項目					
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の		利用者の言葉や表情、行動から思いや希望、要望をくみ取り、職員間で共有し、その方の暮らし方ができるように心掛けている。	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごせる場面がある	①毎日ある		日々の生活の中で洗濯物たたみや野菜の皮むきなど協力をいただき、職員と利用者が一緒に支えあいながら、共にゆったりと過ごしている。	

58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が	読書をしたり、休みたいときに休むなど、一人ひとりの生活のペースを尊重し、必要な援助を行い、穏やかに生活ができるようにしている。
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が	職員が利用者の尊厳を守った関わりをすることで自己決定を引き出し、会話が弾み、笑顔が見られ、その人らしい生活を送っていただいている。
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が	コロナ過の中、外出支援はできていないが、ドライブや敷地内の散歩、日光浴などを行っている。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	①ほぼ全ての利用者が	バイタルチェック、皮膚観察による異常時や体調不良時は看護師や協力病院と連携をとり対応できる体制ができています。
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が	利用者のニーズに対して状況や要望に対して柔軟な対応が出来るようにしている。。
63	職員は、家族が困っていること、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と	入居の申し込み時から、段階に応じて家族より疑問点や不安点の確認を行い信頼関係を築いている。
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	③たまに	コロナ禍で近隣の方々との交流は出来ていないが、昔からの顔馴染みや友達と会う機会がもてている。

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている	地域代表の方に運営推進会議に出席していただき、入居者の状況や運営の状況、施設の問題などを話し合い、意見を伺い事業所への理解を深めていただいている。	
66	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が	毎月の会議の中で、意見や提案を出し合い、新しいことへのチャレンジなど率先して行えている。	
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が	モニタリングにてニーズや必要なサービスを引き出し、一人ひとりに合ったサービス提供ができており、満足していると思う。	
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が	家族へ入居者の健康状態や生活状況を報告し、また要望があればサービスに組み入れており、家族から満足の声が聞かれている。	

